法律は法律を知っている者に味方する

会社を守る法律講座 第⑩回

カリスマ経営者と事業承継問題

弁護士　前田　尚一

まえだ・しょういち／１９５９年１月２２日岩見沢市生まれ。北大法学部卒。９３年前田尚一法律事務所開設。ＵＨＢ「のりゆきのトークＤＥ北海道」、ＳＴＶ「どさんこワイド」出演。ＪＲ札幌病院倫理委員・臨床研究審査委員。元・北海道大学法科大学院実務家教員

――成功した経営者の特徴には、どんなものがありますか。

前田　結論からいうと、事業のすべてをコントロールし続けたことです。アマゾン・ドット・コムの創業者ジェフ・ベゾスは起業当初、ほとんど会社を離れず、重要な仕事はすべて自分でこなしていたのは、その典型でしょう。

――企業は、経営者だけで成り立っているわけではありません。

前田　経営者が組織、端的に言えば、他人の力を借りる必要があるのは確かです。成功哲学の祖といわれるナポレオン・ヒルは著書、『思考は現実化する』（きこ書房）の中で、世界の自動車王ヘンリー・フォードの逸話を紹介しています。とある新聞社がフォードを〝無知な平和主義者〟と論評。名誉毀損（きそん）で裁判となりました。法廷で新聞社側の弁護士は、フォードが無知な人間であることを証明しようと、一般知識の質問攻めにしました。フォードは、「自分のデスクの上にたくさんのボタンがあり、必要としている知識を持った部下がすぐ来てくれる。なぜ一般的知識を詰め込んでおく必要があるのか」と述べています。企業が大きくなれば組織の拡大は自然なことです。しかし、卓越した経営者は、すべてをコントロールできる仕組みを作り、組織や人を活用しています。トップは孤独といわれますが、自分の置かれた状況を直視し、冷徹に乗り越えているのです。そういう意味では、昨年末に死去した北朝鮮の金正日総書記がタイムリーな話題です。

――国家の代表を、企業の経営者として捉えるわけですね。

前田　はい。金正日は、善悪という視点を別とすれば、見事なリーダーともいえます。存命中、国際的にも国内的にも極めて危機的な状況にありながら、自国を完全にコントロールしきったわけですから。民衆からの私刑で命を落とした、リビアのカダフィー大佐とは一線を画しています。２人とも、享年が満69歳。ポル・ポト、フセインらと同じという独裁者の不思議な偶然を感じますが…。

――有能なトップが急死したあとは、後継者問題が浮上します。

前田　卓越した経営者が事業を完全にコントロールすることができた背景には、固有のカリスマ性や経営者個人のパーソナリティーが大きな役割を果たしています。事業承継というと、遺言書の作成とか節税対策といったことに目が奪われがちですが、実は経営者個人のパーソナリティーを代替することが最も重要なのです。金正日後継となる金正恩の権力掌握が進むかどうかは、この承継が上手くいくかどうかです。当事務所では、本気で事業承継対策を考えている経営者の方を応援しています。気軽にご相談ください。（■０１２０・４８・１７４４）

前田尚一法律事務所　http://www.smaedalaw.com/
HPにて、法的観点から時事問題も解説する無料メールマガジン「本当は怖い法律問題」も登録可能